

「大阿蘇青少年リーダー塾」

～ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者研修会～
～ボランティアスキルアップ研修会～

- 【主催】 国立阿蘇青少年交流の家
【後援】 九州各県・政令指定都市教育委員会
【期間】 ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者研修会
平成24年6月16日(土)～17日(日) 1泊2日
ボランティアスキルアップ研修会
平成24年10月20日(土)～21日(日) 1泊2日
【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家
【参加者】 ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者研修会60名
(高校生35名, 大学生18名, 一般7名)
ボランティアスキルアップ研修会37名
(高校生21名, 大学生11名, 一般5名)
【講師】 講義「青少年教育の理解と学校教育における体験活動の意義」
「ボランティア活動の意義」
日本ボランティア学習協会
代表理事 興梠 寛 氏
講義「ボランティア活動の現状」
危機対応研究所
所長 宮崎 猛志 氏
講義・実習「救急救命法」
日本赤十字社熊本支部
赤十字救急救法指導員 宮本 徳弘 氏



1 趣 旨

青少年教育施設におけるボランティア養成研修をととして青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育てるとともに、自然体験活動補助指導者養成研修を行い、自然体験活動の補助指導者としての資質を高めることにより、ボランティア活動と自然体験活動の充実と普及を図る。

2 目 標

ボランティア及び自然体験活動の補助指導者としての資質と意欲を高める。

3 事業展開

(1) ボランティア養成研修・補助指導者養成研修プログラム

日程	午 前	午 後	夜
6/16 (土)	○開会式 ○講義 「青少年教育の理解と体験活動の意義」	○講義「ボランティア活動の意義」 ○講義・実習「救命救急法」	○講義 「ボランティア活動の現状」 ○演習 「講義を聴いての意見交換会」
6/17 (日)	○講義・実習 「阿蘇のフィールドを生かしたボランティア体験活動」	○講義・実習 「青少年施設におけるボランティア活動について」 ○閉会式	

(2) ボランティアスキルアップ研修プログラム

日程	午 前	午 後	夜
10/20 (土)	○開会式 ○講義 「青少年教育施設におけるボランティアの役割 1（心構え）」	○実習 「みんなの広場の準備をやってみよう」	○講義・演習 「青少年教育施設におけるボランティアの役割 2（みんなの広場での役割）」
10/21 (日)	○実習 「みんなの広場でのボランティア実践」	○実習 「みんなの広場でのボランティア実践・後片付け」 ○閉会式	

(1) 目標達成のための工夫

① ボランティア活動の理解を深めるために

今回は、高校生と大学生をクラスで分けず一つの教室で講義をしていただいたことで、真剣な大学生につられ、高校生のほとんどがモチベーションを高く持つことができた。

また、ボランティア活動の意義や重要性をしっかりと理解できるように、今回の研修会でもボランティアに関わる理論や豊富な知識・経験を持つ講師に指導していただいた。自らの理論や実践などについて講義をしていただくことでボランティア活動の理解を深め、意欲を向上させることができると考えた。



興梠氏による講義の様子

② ボランティア活動の実践



阿蘇神社における環境美化活動

ボランティアを育成するためには、青少年教育及びボランティア活動の理解や、ボランティアとしての実践的な態度や技能の定着など様々な研修が必要である。そこで本事業においては、2回シリーズで実施し、1回目をボランティア養成研修・自然体験活動補助指導者研修、2回目をボランティアスキルアップ研修として位置付けた。本事業を2回に分けて実施したことで講義も実技も、時間を十分に確保することができた。

ボランティア養成研修の実践では、阿蘇神社の環境美化活動を行った。由緒ある阿蘇神社と訪れる観光客のために神社を清掃したことで神主さんからもお褒めの言葉をいただくことができた。

ボランティアスキルアップ研修会では、実際に当施設の開放事業である「交流の家はみんなの広場」にボランティアとして参加し、施設を訪れたファミリーや子どもたちと接することで人の役に立つことの素晴らしさを、身をもって体験することができていた。

③ 合わせて資格を与える取組

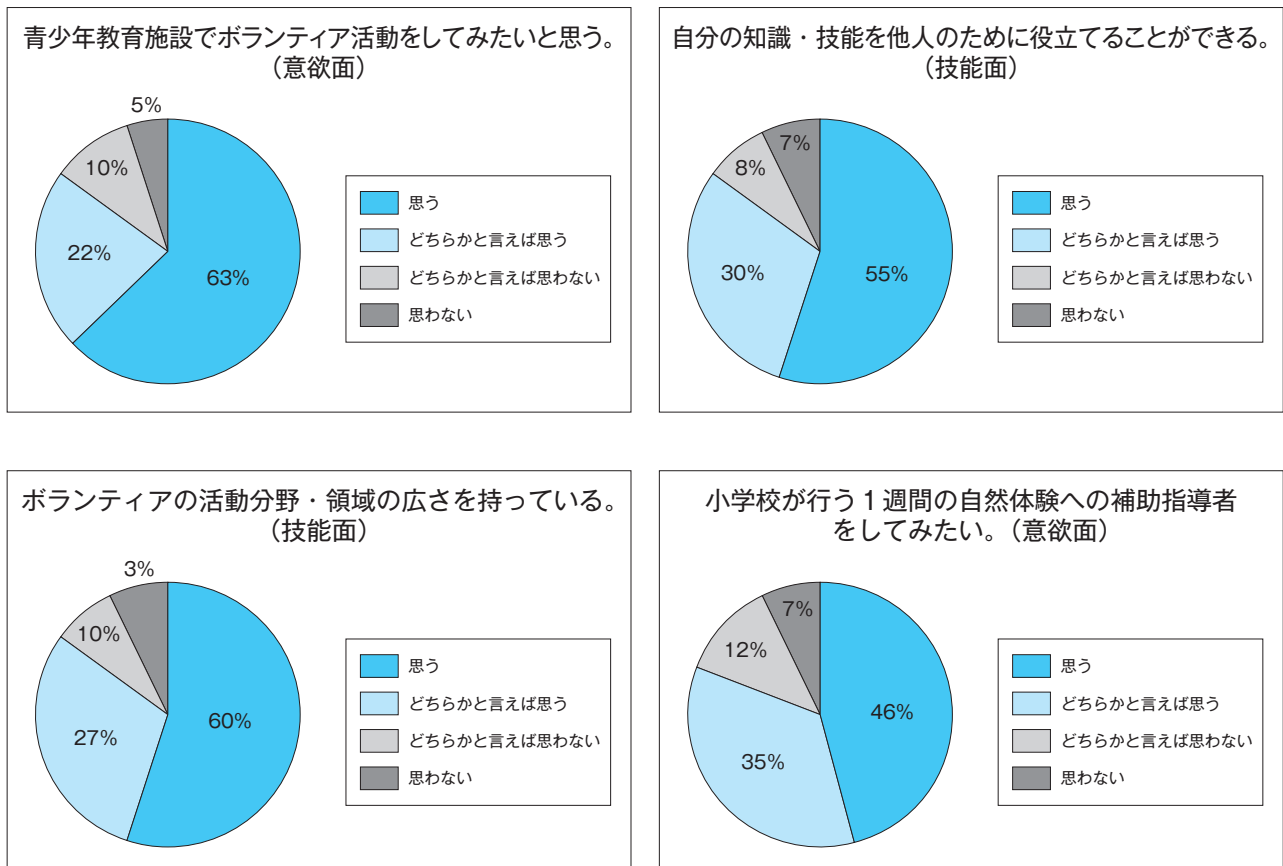
近年、第2期中期目標の趣旨を踏まえ、青少年の課題や困難を有する青少年の問題等への対応を総合的に図るために、児童生徒を対象にした教育事業が増えつつある。今年度も、小学生を対象にした長期自然体験活動プログラムや、阿蘇の特性を生かしたジオ関係プログラムにたくさんの児童が参加した。しかし、どんなに魅力的な事業も、そこには必ずある程度の自然に対する知識と対応能力がある大人の協力が必要であることは周知の事実である。だが、現段階では、その人数は十分とは言えない。そのようなこともあり、ボランティア養成研修と併せて文部科学省の委託事業である自然体験活動補助指導者養成研修を実施した。このことにより、参加者が施設ボランティアに必要な研修だけでなく、学校教育における体験活動の意義や教育課程と体験活動の関連性など自然体験活動補助指導者に必要な研修も受けられるようにした。研修終了後は、自然体験活動補助指導者研修の修了証が発行されることから、参加者の自然体験活動への指導に関わる研修意欲や実践意欲を高め、自然体験活動の普及と充実にもつながるようにした。

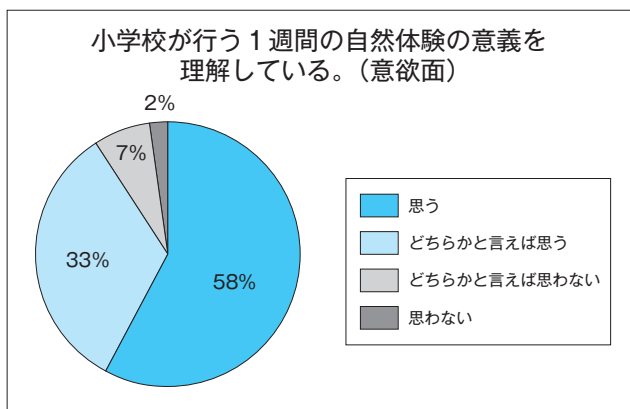


4 結 果

参加者からのボランティアや自然体験活動に関するアンケート結果は次の通りである。

(1) ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者研修会におけるアンケート結果

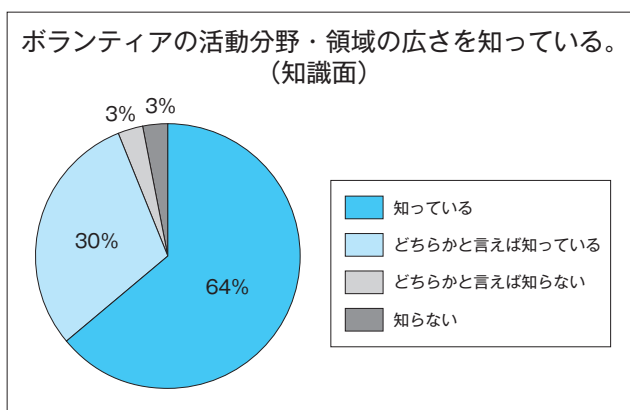
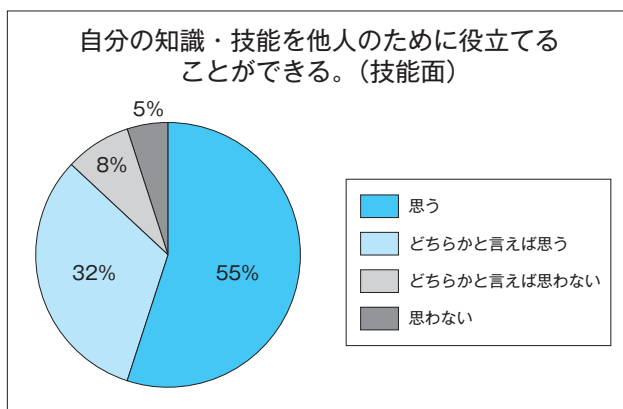
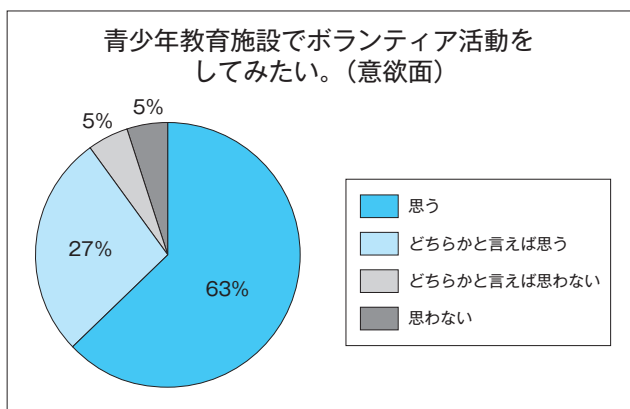




【参加者の声（アンケート記述）】

- 阿蘇神社で実際にボランティアをしてみて、とてもすがすがしい気持ちになった。今回、参加して本当に良かった。
- ボランティアについて初めて真剣に考えることができた。今後のボランティア活動などに生かしていきたい。
- グルーピングが良く、どの班も大学生・高校生・大人が交じっていて様々な人と交流する機会があり、大変良い経験になった。
- 若い方々とのさわやかなふれあいに接することができ、低下していた意欲を再び高めるきっかけになった。
- 実習や実技が楽しかったので、それを増やせばもっとやる気が増すと思う。
- 日程が少し窮屈すぎた。

(2) ボランティアスキルアップ研修会におけるアンケート結果



【参加者の声（アンケート記述）】

- 初めて会う人と、どんな話をすればいいのか心配だったが、子どもたちの笑顔を見て気分が楽になった。
- 人に喜んでもらうことが、自分の喜びに代わる瞬間が気持ちよかった。今回は、大きなイベントでなかなかできない体験をさせてもらって本当によかったです。
- 知らない人から苦情を言われた。そんなこともあると覚悟はしていたが、実際に言われると、一生懸命にやっている分つらいかもしれない。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① ボランティア養成研修と併せて文部科学省の委託事業である自然体験活動補助指導者養成研修を実施し、自然体験活動補助指導者に必要な研修も受けられるようにした。これにより、参加者の自然体験活動に関する補助指導への意欲が高まり、知識が深まった様子が見られた。補助指導者を養成したことにより、今後の自然体験活動の普及に資する体制づくりを行うことができた。
- ② ボランティア養成研修会・自然体験活動補助指導者研修会、ボランティアスキルアップ研修会、それぞれのアンケート結果を見ると、ボランティア活動や自然体験活動に関する参加者の意欲面や技能面、知識面で意識の高さが見られた。また、スキルアップ研修を終え、実際にボランティア活動を経験した方が、アンケートの結果にも伸びが見られた。経験に裏付けられた講師の話や、高校生と大学生・一般を分け、それぞれ実態に応じた講義を行ったことにより、ボランティア活動や自然体験活動に関する理解を深めることができ、意欲の向上につながったことが考えられる。
- ③ ボランティアスキルアップ研修会の実施により、ボランティアとしての実践力等を高めるための、阿蘇神社における環境美化活動や「みんなの広場」でのボランティア活動の実体験を十分な時間をかけて行うことができた。それにより、地域の環境の実態や課題について知り、地域の環境美化の大切さを参加者が実感をもって理解していることがアンケートからも伝わってきた。「みんなの広場」で、参加者とたくさん関わったことで、ボランティアとしての楽しさややりがいを実感することができたという感想もあげられた。

(2) 課 題

- ① 参加者が主体的にプログラムを考える研修を増やすなどしながら、更にボランティアとしての主体性や判断力を高めるとともに、ボランティア活動のやりがいや責任を感じさせる必要がある。
- ② 参加者のボランティアや自然体験活動への知識や技能等の個人差は小さくないため、研修内容や指導・支援の在り方に配慮し、適切な研修資料の準備や個に応じた指導・支援を十分行う必要がある。



事業推進室長 古江 敏郎